

日本で映画を作るため、日本人とのコミュニケーションも大切に考えて、当協会の日本語講座で日本語を学び、情熱的に映画制作に取り組んでいるマイケルさんに、日本に来たきっかけや映画について伺いました。

## 1 故郷はどちらですか？

イングランド中部、ウエスト・ミッドランズ州のウルヴァーハンプトンという都市です。ロンドンから電車で2時間くらいかかります。お気に入りの場所は、私の中学校の近くにあるスメストウ・バレー地域自然保護区です。とても落ち着けるのでよく通っていました。

## 2 日本に来られたきっかけは？

9年前にインターンシップで初めて来ました。観光スポットに行って動画を撮り、YouTubeにアップする仕事で、東京、大阪、京都、名古屋等、いろいろな場所を巡りました。どこもとても綺麗で、人も優しくてよい所でした。一度、帰国しましたが、日本が忘れられず、やはり日本で仕事をしたいと思ったんです。

今は川崎に住んでいますが、この街が大好きです。いろいろな祭りやイベントがあって、わくわくする楽しい街だと思います。

## 3 映画を作りたいと思ったのは？

5歳の頃から、毎週日曜日には家族で映画を見に行っていました。15歳の時、初めて学校で映画を作りました。ミュージックビデオみたいなものだったと思います。そして、古いカメラを買って、いろいろな所に出かけて撮影し、自分で編集していました。その後、大学で映画制作の勉強をして、本格的に映画を作りはじめました。

## 4 映画を作るとき、日本とイギリスで違いはありますか？

イギリスでは撮影中もティータイムをとりまします。例えば1時間撮影したら10分ティータイムという感じで、この習慣を大切にしています。日本では休憩もなく、食事をとる他はずっと撮り続けています(笑)。

## 5 好きな映画は？

日本映画だと「シン・ゴジラ」が好きです。政治家が協議する場面は、とても日本らしくておもしろいです。私がリメイク映画をつくるとしたら、ゴジラを撮りたいですね。

監督は、日本の是枝裕和監督が好きです。あと、韓国のポン・ジュノ監督、イギリスのクリストファー・ノーラン監督ですね。

是枝監督の「誰も知らない」は実際にあった子どもの置き去り事件を、「万引き家族」もやはり実際の不正な年金受給事件をモチーフにした作品です。ストーリーや心理描写はフィクションですが、ありそうな日常として描いているところが好きです。

## 6 映画を作るときに、大切にしていることは？

「The Benza」は異次元に迷い込むコメディです。友達の子が脚本を書いたシリーズ1を見て一緒に作りたくて、シリーズ2から合流して制作に携わるようになりました。この制作チーム「東京カウボーイズ」は、日本人と外国人の混合



英国

面積 243,000km<sup>2</sup>  
人口 約6,708万人  
首都 ロンドン  
公用語 英語



チームで、異なる文化がミックスされたところが好きです。

日本を世界に発信するには、日本人と外国人と一緒に作る事が大事です。外国人だけで日本を撮った作品は、美しい日本、近未来的な東京といったイメージで撮ることが多いですが、実際に住んでいる人にとっては

普通に生活している所なので、外国人と日本人と一緒に作れば、リアルな日常の日本を撮ることができます。

## 7 今、制作している映画について

来年公開予定ですが、「愛着」という映画を作っていて、同性愛、日本人と外国人の恋愛、外国人が日本に住むときに起きる問題等、いろいろな要素を取りあげています。さまざまな愛についての映画です。



## 8 映画作りの原動力は？

ニュースを見て、気になる事件があると撮ってみたいくなります。あと、湘南のビーチに座って波の動きを眺めているうちに、いろいろな発想が湧いてきます。長いときには5時間も海を眺めていることがあります。

## 9 今後、どのような映画を作りたいですか？

私はリアルが大事だと思っています。人間のドラマ、日常生活の中にあるドラマをリアルに感じられる映画を作りたいですね。



※マイケル監督の映画は、prime videoで観ることができます。

コメディドラマ「The Benza」season2 (2020年)

<https://www.amazon.co.jp/-/en/dp/B08PDS4S9Y/>

旅行ドキュメンタリー「Getting dirty in Japan」(2023年)

<https://www.amazon.co.jp/gp/video/detail/B0B7C84TP5/>